



大塚教育

令和6年度5月号

文京区立大塚小学校

校長 山下 智美

3946-3421

身近ないのちに目を向けて

副校長 大谷 信悟

今年の4月は、例年に比べて気温があまり上がらず、不安定な天気であることが多かった気がします。ようやく落ち着いた気持ちのいい陽気になってきました。それに伴い、大塚小学校でも、生き物が活発に活動したり大きく成長し始めたりしています。

正門を入ったところの池には、大きく成長した金魚やフナが元気よく泳いでいます。時々、繁殖行動をしている様子が見られています。1階「学びの教室」前の水槽には令和4年5月頃、我が家（副校長の自宅）で生まれた金魚が泳いでいます。すべて同じ日に生まれたはずなのに大きさや色が様々で、よく観察していると性格にも違いが見られます。校庭につながる通路で飼育しているミドリガメは、動きが速くなり食欲も旺盛になっています。

植物に目を向けると、どれも葉が増え、大きくなり、色が濃くなってきました。ツツジの花は満開に近付いてきています。また、いくつかの植物が、花壇の隅や木陰などできれいな花を咲かせています。

さて、文京区では5月と12月を「いのちと人権を考える月間」と位置付けています。取り組む方法は様々ありますが、いのちについて考える第一歩として、「身の回りの生き物に目を向ける」という方法があります。文京区は自然が豊かとは言えませんが、意識して生活するとそれまでは気にしていなかった昆虫や植物などの存在に気が付きます。

それぞれにいのちがあることに気が付くと、それを足掛かりとして、主体的に動植物等に関わり、そこから心を動かされる経験（感動、驚き、喜び等）をすることでしょう。それらの積み重ねから、自分や他者が関わりながら生きていることや、思いやる心の大切さ等に気づき、少しずつ自分や他者のいのちや人権を大切にしようという態度が育まれていくのではないのでしょうか。

これから学校では、アサガオやミニトマト、キャベツ、ヘチマ、インゲンマメ、メダカ等を育てていきます。また、昨年度まで岩石園だったところに草花を植えて、緑豊かな花壇にしていこうと考えています。その他、いのちを感じ、親しむ機会を大切にしながら学習活動を進め、各教科の学習内容を学ぶとともに、豊かな心を育めるよう努めていきます。保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



<周年に向けて>

周年委員長 志村 容子

毎月、周年に関するイベントが目白押しです。4月は、記念誌に掲載する航空写真とクラス写真撮影が無事行われました。今月は、記念かるた（読み札）の応募が始まります。（4月下旬に配布した手紙をご覧ください。）月末には読み札の選考をし、6月に記念かるた（絵札）の応募を開始します。大塚小の歴史、思い出、地域、子供たちの様子、大塚あるある、未来・夢・希望の大塚など、大塚ならではのことを親子で思い浮かべてみてください。たくさんのご応募をお待ちしています。

今月末の「開校70周年記念みどり大運動会」では、開校記念として特別に第一中学校の校庭をお借りして、「大塚音頭」「大玉送り」「横断幕の設置」を行います。「大玉送り」は、大玉をマスコットキャラクターと見立てて「みどり（白帽子）」と「さくら（赤帽子）」の対決として行います。全校児童で一堂に介して運動会ができる絶好の機会です。大塚音頭への参加と大きな声援もどうぞよろしくお願いいたします。

6年生は、最高学年として周年を盛り上げるリーダーになるべく、総合的な学習の時間に「周年プロジェクト」を設定し、「大漁旗・おみこし」「大塚音頭」「ソーラン節・装飾企画」の3つのグループに分かれて活動を開始しています。6年担任と共に、音楽、図工、養護、少人数の教員もバックアップしていきます。これからどのような波を起こして全校を巻き込んでいくのか、楽しみにしててください。